

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(Aユニット)

事業所番号	2775802131		
法人名	有限会社 家族の家		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	大阪市平野区長吉出戸4-1-5		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭菜園で野菜や花を育て収穫した物を調理し食べる 共に生きるを実施している。</li> <li>・地域の住民であり続けられるよう地域行事や様々な活動に参加している。</li> <li>・地域ネットワークを作り、外出支援を実施している。</li> <li>・開放的で明るく穏やかなホームであり続けている。</li> <li>・独自のメニューで調理し下ごしらえや盛り付け等を行っている。</li> <li>・退屈しない日々を暮せるよう新しいレクリエーションを工夫している。</li> <li>・ご利用者、スタッフの年齢が近いのでお互いの気持ちが分かりあえる。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>訪問調査当日、美味しい手作りの昼食を頂いた後に職員が洗った調理機器や食器を抱えて来て「〇〇さん、お願いします・・」と言ってキッチンへ戻った後、男性の利用者が黙々と丁寧に布巾で食器類を拭き始めた。拭き終わった頃に戻って来て「〇〇さん、ありがとうございます」とお礼を言う場面があった。当事業所では利用者の残された残存能力を自信を取り戻すことによって、復活させ、出来るだけ長く継続してもらうという介護サービスが実践されている。職員は利用者に家族のように寄り添って、細かな気遣いを行う介護サービスが、職員の専門的な知識及びスキルを背景の基に行われている事業所でもある。地域に向けては、管理者が中心になって平野区キャラバンメイト連絡会の活動に協力して「認知症サポーター養成講座」を当事業所で開催するなど、地域福祉への貢献という地域密着型事業所の役割を果たしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアを共にするスタッフには今行っているこのことが理念の内容に繋がっていると伝え継続を実践している。	「焦らず、挫けず、決してあきらめない介護を目指します。ご家庭、地域住民との連携・交流を図り、信頼されるホームを目指します。」という理念と「利用者本位の介護サービス、笑いの絶えない生活、地域の方がフラッと立ち寄れるホーム」という基本方針を事業所内に掲示して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コンビニや理髪店を利用している。近所のクリニックを利用しリハビリに行かれている。気候が良ければ地域の清掃に参加している。	日常生活の中で自然に近隣の暮らしと馴染みの関係を築く一方、地域の福祉力向上を目指したサポーター養成講座などの平野区キャラバンメイト推進活動に積極的な役割を担って活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や、交流会を通し地域の方に認知症の事を理解して頂ける場所として相談や地域包括への報告も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人たちの集いの場として開催し人と人との繋がる場にもなり地域の方が包括支援センター職員に相談されるシーンがある。退所された方のご友人やご家族様なども参加され意見を頂いている	地域の代表者、家族、利用者、地域包括支援センター担当者が出席して、2か月に1回の頻度で開催し、事業所の運営状況、地域交流活動に関する意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で生じた課題を区役所のケースワーカーや包括支援センターに報告相談し問題解決に繋げている	利用者個々の事案でのケースワーカーへの相談や地域包括との情報交換を必要に応じて行うなど、行政サイドの窓口とは良好なコミュニケーションが維持できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して拘束に価する事柄を理解し、身体拘束をしないケアに繋げている。ベランダの開放は利用者家族の希望に合わせて対応している	職員は身体拘束防止に関する研修にて知識を習得した上で、利用者個々の身体状況に応じた支援方法を職員間で話し合い、家族の同意の上で適正な支援を行っている。利用の状況により鍵をかけない介護にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	人権研修を行うなど虐待は言葉の一言から生じるものもあることや、身体特記事項表を作り、身体の異常をチェックし防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場にてスタッフが行っている言動から権利を奪っていないか自己覚知できるアプローチを行う。成年後見人制度を利用している3名おられる。OJTで説明を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り納得されるまで質問に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での席で発言して頂ける。苦情相談窓口や面会時などで希望等は反映している	毎月、家族に対して「1ヶ月のご様子」として今月のベストショット写真を添え、暮らしぶりや体調について文書にて報告している。家族の来訪時には本人の健康状態や様子をくわしく説明すると共に、家族の要望や心配事を聞くように努めている。	当事業所が提供している手作りの食事の最近の献立表(主菜・副菜)の写しを時々家族への便りに同封しては如何か。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何かあれば緊急会議を行い代表者はスタッフの意見を認める。管理者は現場内外にてスタッフとの関係性を良好に保って意見や提案を聞いている	代表者は現場責任者の管理者及び職員の運営に信頼を置いている。産休・育休を取得して復職した職員にも面談できた。職員の提案を採用する、管理者の介護方針を徹底する相互の関係が調和されている風通しの良い職場の雰囲気を感じる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表者へ職員の自己評価表を提出し貢献度、心身の状況報告又、功績が上げれば昇給に繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者代理が現場に入り管理者や職員の力量を認識している。管理者やリーダーは現場でここに指導している。新人にはOJT、必要とする職員には外部研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は平野区でグループホーム連絡会の代表を務めており、又在宅支援事業所やお互いグループホームの事業や運営推進会議に参加し学び合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご本人の生活歴等の情報収集に努め、不安や要望にできるかぎりこたえるようにしています。言葉にならない思いを汲み取るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接をおこない、笑顔で傾聴しご家族の困り事や不安や要望にできる限り解決へのアプローチに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い他機関との情報を元に、双方の話を聞き本人にとって一番良いサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの半数以上が60歳以上なので同じ目線に立ち喜怒哀楽を分かち合いながら過ごしている。家事作業を通じ達成感を分かちあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族とコミュニケーションをとり毎月の近況報告の手紙と共に生活ぶりや記念のシーンの写真を送って状況を把握していただいている。また家族と共に外出したり、記念日を共にされたりして家族のきずなを大切にしたいケアをおこなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのショッピングセンターや眼科などを利用している。以前暮らされていた近辺に散歩することがある。地域の業務等に参加し知人に出会い喜ばれる	入所前と入所後の本人の暮らしがスリットしないように、利用者が住んでいた近くを訪問したり、家族の協力を得て昔の知り合いに会う機会を作る支援をしている。馴染みの美容院や行きつけの商店を利用することも心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業等で利用者同士協力しながら洗濯物を干したり食器拭き盛り付け等をお互い思いやられているシーンがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、提供できるよう努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言動や生活習慣などを把握し、「その人らしい」生活が送れるよう、職員間で情報を共有し、本人の視点に立って意見を出し話し合っている	利用者の生活歴を把握し、得意なこと、好きなこと、嫌いなことを理解した上で、本人の思いや、悩みを介護する側も共有して、一緒に悩み解決して行くアプローチが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の言葉や家族や関係者からの情報を得て。ご本人が暮らして来られた生活環境等の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動をケース記録に日々の状況を記録しスタッフ間で検討し、ケアにいかしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者からの情報を元に話し合い作成している	利用者の状態について介護記録、申し送りノート、業務日誌に記録すると共に、担当者会議で職員間で本人の課題を共有した上で、家族にも相談して、状態に応じて3か月、6か月毎の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録をとり情報の共有に努めケアの見直しを行いながら介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	Aユニットではホームの食事以外に嗜好品を用意し食べたい時に提供している。入浴も希望の日時で入って頂いている。医療機関の送迎、付添いなど柔軟に対応できるよう、心かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	リハビリや理美容は終了後電話を頂き迎えに行ける距離の場所を利用し、地域の行事にも積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医療機関をかかりつけ医とし月2回の往診、毎週1回の訪問看護の支援あり。必要であれば専門医への受診している。白内障の手術の際は3ヶ月受診に付き添った	かかりつけ医の選択は家族の希望を優先している。協力医療機関の内科は月に2回往診している。毎週の看護師訪問により体調の管理を行っている。利用者毎の医療状況は医師との連携を密にした情報記録によって管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化早期発見し看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。又、採血等で看護師が困難きたす時は本人が納得できるアプローチを行い補佐する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、医療関係者と連絡を図り、情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞き医師に協力を求めている。家族には事業所で出来ることを説明し、理解を得て終末期ケアを行っている。残された時間を家族と有意義に過ごせるように支援している。職員にはミーティング等で度話し合い周知し支援に取り組んでいる	重度化及び見取りに関する事業所の指針を家族に説明して(後見人がいる場合は立会人として)同意を得ている。家族の理解協力を得て、本人の苦痛を出来るだけ少なくするよう医師の指示のもとに終末期ケアを行う体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所から職員に応急手当普及員の資格を取得してもらい、必要時には訓練や研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火があれば装置も作動し消防署へ通報できる。災害時の為の避難訓練を行っている。地域の方の避難も受け入れ体制を取っている。	火災発生時の通報設備、消火設備、避難路の確保は整備されている。消防署の協力・指導の下に年2回の消火避難訓練を実施している。地域防災対策としては避難受け入れ場所として協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら親しみももてる言葉かけに努めています	一人の男性入居者の居室は、本人が過しやすいように尊重し、冷蔵庫が持ち込まれ庫内にはドリンクが入っている。本人のプライバシーや生活スタイルを優先することで、落ち着いた暮らしぶりに繋がって行く支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの服や買い物など、自身で好まれる物を選んでいただいている。自己決定が出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位を念頭に一人一人のペースを大切に支援に努めている。入浴など無理強いせず、入浴日以外でも対応したりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や、理美容へ定期的にお連れしている。起床時や入浴時には衣類の選択をスタッフと共に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・米とぎ・盛り付け・食器洗い・皿拭き・テーブル拭き等のアプローチをしている。嫌いらいなメニューの時は別メニューを提供・外食もある	調理を専門とする職員によるメニューで食事が提供されている。利用者(女性も男性も)は食事作りに参加し、食器拭きを行っている。手作りの温かい美味しい料理を職員も一緒に食事する家庭的な昼食風景となっている。	利用者は主婦として長年食事作りを経験した人である。提供されている美味しい食事のレシピの紹介を食事時の演出として取り入れては如何。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏らないメニュー作りに心がけ、個人に合わせた量や形態で提供、水分はチェック表を参考にしチームで提供方法や水分内容を変え工夫している。個別の好きな飲み物や、ゼリーやジュースなどいろいろ工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。月に1~2回訪問歯科を利用し個々に合った口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方が昼夜を問わず布パンツを使用しトイレでの排泄を基本としている	トイレでの自立した排泄習慣を継続するために、排泄記録をベースにした事前の誘導による支援が行われている。水分摂取を重視したケアにより尿量減少や便秘防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を意識したメニュー作りに心がけている。水分補給の回数を増やしたり寒天や乳製品の提供を行っている。運動など積極的に行い、又排泄しやすい環境作りの為、リラックスできる空間と笑顔の関わりに努める		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回の入浴であっても突発的に入浴の必要性が生じると回数関係なく入浴して頂く。曜日や時間は決めず希望に応じての対応をしている	本人の希望を優先した入浴の対応となっている。週に2回を原則として本人の体調や気分に応じ、菖蒲湯などの季節を感じる雰囲気作りを職員が工夫して、ゆっくりと不安なく入浴してもらおうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に一人の時間が過ごせるように努めているが、ご自身で判断ができない方には疲れた時や夜間睡眠が少ない時などは習慣や体調に合わせて休息できるようアプローチを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医看護師への報告相談を都度行っている。薬の変更や増減時は観察重視し少しの変化も見逃さないよう心がけ記録に残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	防犯担当の方がいるなど、得意なことを発揮できる環境作りに努めている。ホーム敷地内で花や野菜を育て水遣りや収穫を楽しまれている。洗濯物干しや食器拭き買物掃除等を日課としている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園の散歩やスーパーの買い物以外にもスタッフが行っている農園で花や実を収穫に行ったりしている。川沿いに大群のこいのぼりが泳いでいる場所へ行ったりしている	近くの公園に出かけたり、買い物に行くなどの日常的な外出の他に、季節季節の行事外出(花見・遠足など)を計画して楽しんでもらっている。職員6名によるレク担当が行事、毎日のレク、装飾、誕生日などの企画・運営が実施されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際にレジにて支払いをしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出せる方は現状いないが、出来る方がいれば都度対応する。自宅に電話したり取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下にソファや椅子があり、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。庭やベランダには四季折々の花があり、天気の良い日にはガーデンパーティーを行っている	玄関前には植物や花が飾られて「花の里」らしい。室内は明るくリビングも広い。幅のある廊下には長椅子が置いてあり一人になれる場所が確保されている。行事の写真や地域交流の状況、予定表が掲示され、暮らしぶりや運営状況が分かり易い。トイレの場所表示も明確である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Aユニットでは居室にお膳やテーブルを置いて食事したり、お茶したりできる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものを居室に置いてもらえるよう、入居時に案内している。仏壇や家族の写真を置いてある	畳敷きの部屋もあり、居室は清潔に保持されている。利用者の希望を尊重した部屋には冷蔵庫が持ち込まれている。家屋と相談して仏壇など馴染みの家具。調度品が置いてあり、どの部屋も、本人が安心して過ごせる雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口にオリジナルの表札を掲げている。トイレや洗面所も大きな字で表示している		